

# 埼玉の くらしと 社会保障

2023年8月1日発行 第328号  
 (毎月1回発行)  
 発行 埼玉県社会保障推進協議会  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-1 2-8 自治労連会館1階  
 TEL 048-865-0473 FAX 048-865-0483  
 ホームページは「埼玉社保協」で検索ください

## コロナの制限解除後初のキャラバン

# 2023年自治体要請キャラバンが開催されました

自治体要請キャラバンが7月6日から7月19日まで8日間開催し、要請団はのべ1,045人、自治体818人の参加がありました。(7・31現在)

各市町村のキャラバンのご報告を8月、9月の2ヶ月に渡って掲載します。

### ～自治体要請キャラバン特集～

#### 財政非常事態宣言で削減した社会保障を元に戻せ 新座市と懇談【22コース】

7月14日、新座市役所で2023年自治体要請キャラバン行動が行われ、新座市社会保障推進協議会の各団体から30人が参加しました。



懇談事項5項目にそって懇談を行ないました。子どもの均等割減免拡充については、会場からは、新座市は子育て応援都市宣言をしている。県内10市町が実施している国民健康保険税の子どもの均等割減免を実施して欲しい。市は、財源含めて国で議論すべき問題と考えています。特定の世帯に減免するのは国保制度の主旨からよろしくないと回答。

介護保険改定については、次期の改定は史上最悪の改定と言われ、介護関連3団体の調査では(物価高の影響も含め)、事業所の27%が廃業・倒産もあると、市内の事業所の状況はつかめていますかの質問に、市は事業所には県指定と市指定がありますが、市内事業所の状況についての傾向はつかんでいると回答しました。

次に、障がい者施設整備は課題について、参加者から施設整備の見通しはどうか。また、県内のNPO法人の事業所で後継者がいないため閉鎖しようかという例がある。県には処遇改善を、市にはバックアップをして欲しい。担当課から入所施設整備は県全体でも難しくなっていて、年に1件あるかどうかで、グループホームが代わりになっています。市は相談支援体制の人材育成について活発におこなっており、市内の事業所に感謝している。

子育て世代からは、国の保育士不足解消対策に期待したが、保育士の定数改善ではなくがっかりした。高校生の通院医療費も無料ではなくなった。子育てに力を入れることが新座市を盛り立てていくと思うので検討して欲しい。担当課より、処遇改善したいと考えてはいるが、財政が厳しく月額1万円の補助を維持するのが精一杯。おむつの保育園内処理の補助金や、支援が必要な子どもへの補助金を引き上げたので経費が増えている。学校給食費の無償化については、今年度給食費を値上げした額は補助した。他市には給食のセンター方式もありますが、新座市の自校方式は貴重だと考えており、その改修にもお金がかかり無償化は難しい状況。

最後に、生活保護の扶養照会について、令和3年に扶養照会の判断基準、調査の仕方について国の通知が出ているがどうい対応をしていますか。市は、国の通知に基づき扶養照会が適当でない場合や扶養の可能性が期待できない場合は、扶養照会を行わないものとしています。

新座市社保協では事前学習会も行い、有意義な懇談とはなりましたが、財政非常事態宣言で後退した社会保障分野はもとに戻さない方向は変わっていませんので引き続き、「誰もが住みやすい新座市のまちづくりを求める」署名行動に取り組んでいきます。

(新座市社会保障推進協議会 石島 陽子)

#### 社会保障拡充で暮らしの改善を

#### さいたま市と懇談【1コース】



埼玉県社保協の自治体要請キャラバンは7月6日、さいたま市と要望5項目をめぐって懇談。社保協から13団体・40人、市の担当者18人が参加しました。

①医療 法定外繰入れは拒否。段階的に取消中。結果、国保税は7年連続値上げ。子ども均等割り負担軽減も拒否し、逆に均等割りを拡大、所得割を縮小。国保税徴収は差押え執行を連発し厳しい取り立てを継続。社保協は、フードパントリー利用者が増え貧困層の暮らしが悪化。無料低額診療事業に無保険の人が来たが、即入院・透析の診断が。国保税の過重負担を追及し改善を追求。

②介護 市の介護保険料は県内2位の高額で、県平均比9,402円も高い。介護改善でサービス劣化のなか、第9期で保険料値上げを計画。市は積立基金44.5億円、交付金130億円を充当して値上げ抑制というが、社保協は、保険料を上げないための予算計上を求めた。また、12段階保険料を15段階に拡大し、低所得者の過重負担を是正し応能負担とするよう要求。

③障害者 グループホームの民営化で重度障害者が退所へ。相談者の確保、コロナ支援の継続などを要望。④子育て 保育士職員の待遇改善、配置基準の改善を求め、公立保育所の削減を追求。⑤生活保護 しおりのカラー化を、生活保護利用者が国・県で増加しているのに市は減少、などを追求。さいたま市社保協はキャラバンの未決着問題は、年間5回の市との懇談会で継続協議して実現を目指します。

(さいたま市社保協 会長 依田 博之)

**懇談に23名が参加  
諸団体から7人が市に発言要請**

**富士見市と懇談(6コース)**



7月7日、今年で30回目を迎える自治体キャラバンに取り組みました。3年間コロナの影響で参加人数が10名程度に制限されていましたが、今年の参加者は23名を数えました。(市側からは、担当課長ら14名が出席)

5つの共通懇談項目にそって行いました。発言内容の概略は、以下の通りです。

子育て分野からはこばと労組の小林えり奈さんが、配置基準・委託費・補助金の拡充を要望しました。

国の配置基準の低さから4・5歳児の配置基準が75年ぶりに見直されましたが、まだまだ不十分です。これは、0歳児～3歳児においても同様。ここ数年コロナ禍で様々な規制のある中、少人数の保育で実感したことは『一人ひとりにより丁寧な保育を保障できる』という喜

びです。人間の土台を作る乳幼児の時代に、とても重要な時間だと改めて感じました。少人数保育で感じた『より良い保育』を追い求めることが今後も私たちの思いであり、子どもたち・保護者の願いであるため課題は山積みです。

保育園の建物や設備を維持していくためには、修繕などのメンテナンスも必要になります。未来ある子どもたちの成長発達を守っていくためにも、国・県・市に対しては、配置基準の改善、委託費や補助金の拡充・増額をしていただきたいです。

学童労組の田中進也さんからは、「学童の増設・キャリアアップ処遇改善事業を」要望しました。

年々、富士見市の児童クラブを利用する児童数は増えており、市内の11校区のうち、10校区は現在定員を超過している状況です。定員を超過したクラブでは、子どもたちが遊んだり、宿題をする場所はもちろんのこと、子どもの生活場所を作ることが困難な状態です。休養する場所を確保したり、トイレをするのに列を作って待ったりと、子どもたちが安心して生活を送ることが難しく、子どもたちが安全に生活するには「児童1人当たり1.65㎡以上」の生活スペースが必要であり、児童数に見合った生活スペースを求めます。

また、障がいを持つ子も含め、子どもたちの安全と子供一人一人に行き届いたサポートを保障するために、「1支援の単位40人以下」という基準のもと、学童保育指導員の適正な人員配置を求めます。

放課後児童支援員等処理改善等事業による処遇改善手当として、正規職員・再雇用職員・契約職員を対象に25000円(月毎/1人当たり)の支給と、パート職員(補助員)への補助金に感謝します。

富士見市の学童保育の質の向上と学童保育指導員の成長のためには、「キャリアアップ事業」で県内34(54%)市町が申請しているキャリアアップ処遇改善の申請が必要であり、早急に取り組むよう求めます。

年金者組合の大野良平さんからは「後期高齢者2割負担問題、介護保険について、市に対策を求めました。

来年度から要介護1・2の生活援助等サービスを市の「総合事業」に移行、ケアプラン作成の自己負担導入、基準額の引き下げによる利用料2割・3割負担対象者の範囲が拡大することについて市の考えを聞きたい。

特別養護老人ホーム入所待機者が149人と減少しています、昨年の交渉で上沢地区に施設ができるとのことでした。市民は速やかに年金で入所できる施設を求めています。その後の対応はどうなっていますか？

昨年10月から後期高齢者の医療費窓口負担が2割になった人が富士見市は3566人います。負担が重く通院や薬を減らすなど命を削る人も出てきています。市として軽減・補助をすべきではないか。

5月12日参議院本会議で75歳以上の医療保険料を引き上げる健康保険法などの改正法が可決され、年金収入が153万円を超える人で75歳以上の4割が対象になると報道されています。当市の状況を伺いたい。

大井協同診療所の原田芳子さんからは、マイナカード

を保険証に扱いにするところで医療現場は大混乱になっています。現在はマイナカードの信頼性が崩壊していることもあり、ほとんどの診療所でも利用されていませんが、利用者には保険証も必ずお持ちくださいとお伝えしています。来年度、保険証発行が廃止されると大混乱は必至で、マイナカード申請のために外出もままならない高齢者や障がい者は一体どのようにするのか、自治体ではその具体策があるのでしょうか。また、認知症の方や独居在宅療養者、施設入居者や入院中の人のマイナカードを医療機関や介護事業所が預かりすることは不可能ですので、その方たちのマイナ保険証は自治体が預かるのでしょうか。紙の資格確認証を発行するといってもその手続きは誰がするのでしょうか。このシステム導入にはコストもかかり、ICTシステムにも理解が必要です。富士見市内の診療所などでマイナシステムの導入を諦めて、閉院するところはありませんか。

自治体職員の皆さんも同じで、本当に大変な時世になりご苦労続きと思います。自治体からも声をあげ、制度の見直しを要求してください。

医療情報の提供に同意すればいくら、同意しなければ加算を高くするという差別不平等を生む制度に、医療生協は反対します。

富士見市生活と健康を守る会の綾 好文さんからは、生活保護の「しおり」改善を要望しました。生活保護基準以下で暮らす750万人の人々のすべてが生活保護を利用できるようにする、生保捕捉率を限りなく高める責任が行政にあると思う。私たちが何年もお願いしているが、行政側が「生活保護の申請は国民の権利です。」というチラシ・ポスターなどを作成し広報に努めてもらいたい。厚労省がHPを改正したが、そのHPの通りのチラシ(全生連が作成)を駅頭などで配布した市民からの反響もあった。しかし、市民の中にまだ生活保護制度への誤解と偏見が強い。富士見市作成のチラシの威力は大きい。

生活保護のしおりを見直してもらったが、今回も「担当課以外の職員では正確丁寧な説明ができないことから、広範な配布を見合わせている」との回答だが、専門性の高い担当職員でなければ誤解される心配があるなら、だれが読んでも解るような「しおり」に改善してほしい、だからこそチラシ、ポスターの必要性がある。全国的にも作成配布する自治体が増えている。奈良市ではポスターを超える効果のある4駅電光掲示板で、「迷うことなく申請を」と呼び掛けている。

(富士見市社会保障を良くする会ニュースより抜粋)

## 軍事費拡大でなく社会保障の拡充を

### さいたま市社保協23回総会開く

さいたま市社会保障推進協議会(さいたま市社保協)は7月2日、埼玉会館で第23回総会を開きました。第1部は「社会保障の再建なしにくらしと経済の再生なし」のタイトルで、大門実紀史前参院議員の記念講演。第2部は総会議事。第2部の開会にあたり市社保協依田会長が挨拶。埼玉県社保協の段和志事務局長と、日本共産党市議団の竹腰連市議が来賓挨拶されました。議事は

5議案めぐり団体・地域代表4氏が時間いっぱい討論。会場には、66人という参加もあり講演・議事ともに元気あふれる総会になりました。



大門実紀史氏の記念講演では、アメリカの対中戦略にそった岸田政権の軍事大国化が、5年で軍事費43兆円、GDP比2%へ。その理由は①米国の要求による。中国軍事バランス・核兵器を購入せよ②日本の財界(軍需産業)の要求による。導入するスタンド・オフ・ミサイルは米国の援助で日本の軍需企業が開発、米国からトマホークや事故多発兵器を買わされる対米従属の極み。大軍拡は増税と社会保障削減は必至と指摘されました。

経済の停滞の原因は、日本の賃金が上がらないこと、可処分所得も横ばいと指摘。暮らしと経済をよくするために、新自由主義を転換・賃金引上げで景気回復を・社会保障の拡充・応能負担の税制へ、消費税減税・気候危機打開・ジェンダー平等で、経済成長実現を、と強調。いまこそ社会保障のたたかいを攻勢的に行い、「社会保障の再建なくして、暮らしと経済の再生なし」と結論づけました。参加者からの感想——「岸田大軍拡の背景が解った」「経済をよくする道筋が理解できた」など多数寄せられました。

依田会長の開会挨拶では、「アメリカの対中戦略にそった岸田政権の『敵基地攻撃』と『戦争する国』への転換と大軍拡。その財源を国民のくらしを犠牲にすることに求めている。一方、国民の怒りは広がり、社保協を含む多様な運動が前進していることに確信を。さいたま市の清水市政は福祉削減・住民負担増を強行。市政転換と社会保障拡充のために市社保協の強化と運動の前進を」(要旨)と挨拶しました。

来賓挨拶では、共産党竹腰市議からは、さいたま市政が社会保障費を年20億円も削減し、浦和駅西口の市民会館移転に600億円も注ぎ込む。市民にくらしやすい街にするために運動をしていこうと共同をよびかけました。

(さいたま市ニュースより抜粋)

### 23年度役員紹介

会長	依田博之
副会長	阿部テイ〇
事務局長	山口晶乃
会計	駒谷良長
幹事	生澤壮介
//	岩淵力雄
//	木原平次郎
//	関原雅子〇
//	多賀哲弥
//	高島文彦〇
//	坪野智彦
//	松村としお
特別幹事	土井 清〇
会計監査	岡田美智子
事務局	鈴木遼介〇
//	小松崎俊一
名誉役員	新井 薫
//	荒川常男〇

(〇は新任・幹事50音順)

## 中央社保協 第67回全国総会開催

7月5日(水) 午前11時から全労連会館とオンラインを併用して行われました。参加は全国から56団体、会場30人、オンライン参加65人で、埼玉からは、段事務局長、高橋事務局次長、保永事務局の3人が参加をしました。中央社保協の林事務局長の情勢、活動報告、決算、新年度方針、予算案の提案を受けたあと、全国から20の発言があり、埼玉からは「軍事費2倍化ではなく、社会保障の拡充を」毎週木曜日の取り組みと「保険証の廃止」の中止を求める宣伝行動、「統一地方選での公開質問状と要望書の行動と「払える保険税」に向けての取り組みの報告をしました。

最後に第67回全国総会アピール「軍事費の拡大ではなく社会保障の拡充を求め 全国的な運動を決起しよう！」を全員で確認をして終了しました。

## 第32回埼玉社保協総会・レセプションを予定

日時 12月16日(土) 10時～15時  
会場 さいたま共済会館601・602

埼玉県社保協30周年レセプション  
(15:30～17:00を予定)

テーマ「埼玉から全国へ～  
社会保障の拡充をめざして～」(仮称)

♡ オープニングイベントなどの出演を募集中。

## 30周年記念 埼玉社保学校開校のお知らせ

日時 9月10日(日)12:30～16:30

会場 さいたま共済会館601・602

参加費 2,000円 (会場・ZOOM)

### 第一部 記念講演 濱畑 芳和さん

(立正大学社会福祉学部教授・自治体問題研究所理事)

テーマ「日本の社会保障は

どうあるべきか」(仮題)



### 第二部 ～30周年記念シンポジウム～

「埼玉県で社会保障運動を果たしてきた30年」

～次の世代につないでいくこと～

パネリスト 小畑雅子さん(全労連議長)

原富 悟さん(前副会長)

司会進行 川嶋 芳男さん(副会長)

お申込書、詳細はチラシをご覧ください

## ～社保協30周年プレ企画～

### 荻野吟子記念館、見学と散策ツアー

日時：11月18日(土)

集合：熊谷駅北口 午前9時30分

会費：500円(※お弁当代含む)

※交通費は個人負担でお願いします。

(浦和駅から熊谷駅 片道770円・バス代片道440円)

目的地：「荻野吟子記念館」

(生誕の地史跡公園・熊谷市俵瀬) ※現地解散可。

#### ＜当日のスケジュール＞

9:30 熊谷駅北口集合→10:00 バス発車→10:30 葛和田団地着→10:50 荻野記念館着(徒歩20分)→11:00 記念館見学&解説→11:45 光恩寺に向けて出発→12:05 渡船場到着(→船10分)→12:15 赤岩宿・渡船場着→12:20 昼食(40分)→13:00 旧荻野家長屋門着・散策・おみやげ(川崎製麺所)→14:10 赤岩宿渡船場発→14:35 葛和田バス停発→15:10 熊谷駅北口着

～お問合せは社保協～

## 県政要求共同行動

日時：11月2日(木)10時～17時

午前は集会、午後は社会保障分野と県政全般にわかれて県と懇談を行います。

会場：さいたま共済会館

午前・午後社会保障分野／501・502

午後・県政全般／505